

## II 景観 美しいまちに住みたい

# 美しい まちなみ

景観は、生活環境の現れといえます。美しいまちを形成するのは、住まいを建築し、維持管理をする、暮らす人の思いと行動です。

## case 03 京都まちなかこだわり住宅

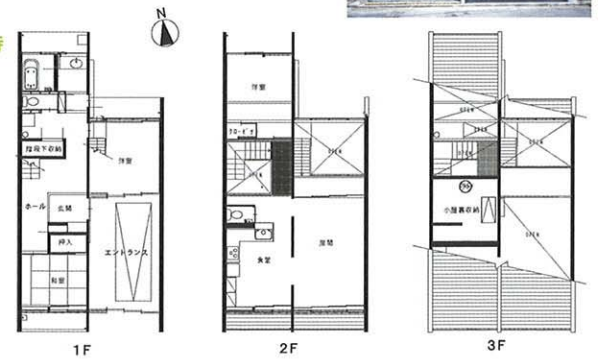
京都市東山区の建売住宅敷地に「京都ブランドの家をつくろう」と、不動産事業者、学識経験者、公的機関とともにコンペを実施し、優秀案を実際に建設、モデル住宅として公開した後に分譲した。

コンペは論文審査を通過した5組の建築家と共に学習会やワークショップを重ねて設計提案を受け付け、公開審査の後に「現代京都市型住居研究会(代表/魚谷繁礼)」の提案が選定、建築された。都市住宅学会業績賞ほか受賞。事業主は建都住宅販売株式会社。



■建物内観  
地域産材や伝統的な技術を用いたインテリア。間取りも自由に変えることができ、ライフスタイルに合わせて変更が可能となっている

■コンペ提出時の平面図



撮影=杉野圭 (建物外観 [夜景] 除く)

■建物外観 (夜景)

周辺の軒のラインを描え、景観のリズムに配慮した外観

地域の魅力を視覚的に示すのは、美しい景観です。景観には地域の気候風土などの自然、生活や経済活動などの人々の営み、文化や伝統などの暮らしの行い、歴史や管理育成といった時間の流れがすべて現れます。そしてこれらは時間とともに変化します。

ここで紹介する事例は、いずれも京都の建売住宅の供給時に、地域の景観になじみ、住まい手が景観を育

成する仕掛けを導入したユニークな事例です。

「京都まちなかこだわり住宅」は、地域の産材や技術を積極的に活用した地産地消の家づくりを目指すとともに、コミュニティと景観に融和する仕掛けを導入しました。コンペ方式を採用して話題を喚起しつつ、多くの人を巻き込んで住まいづくりを行った事例です。

「北大路まちなか住宅コラボレーション」は、8名の建築家が8区画を担当・設計した建売住宅で、色調や屋根の形状、駐車場の扱いなど、景観を構成する基本条件を共有しながら建築家それぞれが設計を行い、個性的な住宅が並びつつも全体的には調和のとれたまちなみを創造しました。群として供給されることが多い建売住宅において、住宅開発と魅力的な景観づくりを共存させた事例です。

美しいまちなみに住まうには、まちなみになじむ住まいづくりを行うことが必要です。その「心意気」のつながりにより、まちなみは形成され、価値ある地域となるのです。

## case 04 北大路まちなか住宅コラボレーション

建売住宅の質的向上や景観形成を目的に、計画・設計段階から建築家の参画を得て行った建売住宅の開発。「京都の30年後の良質なまちなみを創る」というコンセプトで指名された8名の建築家の協働作業が進められた。「木造であること」「駐車スペースを確保すること」「隣家との境界塀を作らないこと」「建築単価は規定の価格以内でおさめること」などの建築条件を前提に、建築家でデザインコードや設計コンセプトなどを話し合った。

デザインコードは「外壁には黒か、いぶし銀色を使用する」「平入りとする」と決められ、それぞれの建築家がプランを提出した。なお、この一連の取り組みは2004年度のグッドデザイン賞を受賞している。事業主は株式会社ゼロ・コーポレーション。



■外観 (上)

個性的な住宅が並んでいるが、全体としては調和のとれた景観を形成している

■外観 (右)

京都らしい色調として採用された黒、いぶし銀色により、全体のまちなみのカラーが構成されている



■住戸の平面図 (8区画中の2戸)

いずれの敷地も京都の都心部に多い「うなぎの寝床」状で設定。8名の建築家の工夫を凝らした間取りとなっている

